

温海地域審議会 提言書

平成25年12月16日

はじめに

平成 24 年 3 月の日本海東北自動車道鶴岡～温海間の開通により、温海地域長年の念願でありました高速交通時代が幕を開けました。

地域内には「あつみ温泉」と「いらがわ」の 2 箇所インターチェンジが設置され、市中心部までの所要時間が短縮されたことにより経済活動や救急医療分野で大きな効果が現れています。また、あつみ温泉の観光客数や道の駅の利用者が増加するなど、高速効果が顕著に現れています。

さらに今年の 5 月には日本海沿岸東北自動車道の「あつみ温泉インターチェンジ」から新潟県「朝日まほろばインターチェンジ」までの事業化が決定、首都圏までの全線開通が現実的なものとなり、観光をはじめとして地域産業に与える効果には大きな期待が寄せられているところです。

しかし、一方では全線開通により、いわゆる「ストロー現象」の発生が懸念される所であり、その対応が喫緊の課題となっています。「ストロー現象」を防ぐためには、高速道路利用者の目的地となることが必要で、魅力ある地域づくりが必要不可欠となります。

温海地域は豊かな自然に恵まれ、その自然が生み出す「温海かぶ」などの貴重な農林産物や新鮮な魚介類などの豊富な食材から生まれる独自の食文化を有し、国指定の「しな織」や「温海こけし」といった伝統工芸品も多く残されており、観光の中心である「あつみ温泉」には多くの観光客が訪れています。また、その他の地域にも景勝地や史跡、伝統芸能といった多くの資源を有しています。

日本海沿岸東北自動車道全線開通を前に、地域住民が一丸となって温海地域の持てる力を最大限に発揮し、訪れる観光客のみならず、住民自らが魅力を感じながら住み続けられる温海地域にしなければなりません。

今後とも市民と行政が一体となり地域の活性化に取り組み、温海地域の振興はもとより、鶴岡市全体の発展に寄与することを祈念し提言いたします。

平成 25 年 12 月 16 日

鶴岡市長 榎本政規 様

温海地域審議会会長 奥井 厚

目 次

I 地域振興に関する提言

提言 日沿道全線開通に向けた地域振興策について
～ストロー現象を防ぐための魅力ある地域づくり～

1. 地域産業の振興 ————— 1

2. あつみ温泉の振興 ————— 2

3. 鼠ヶ関地区の振興 ————— 4

II 温海地域審議会 の開催状況 ————— 6

III 温海地域審議会委員名簿 ————— 7

I 地域振興に関する提言

提言 日沿道全線開通に向けた地域振興策について ～ストロー現象を防ぐための魅力ある地域づくり～

1. 地域産業の振興

【現状と課題】

温海地域は大部分を山林が占めていることから、農業は少ない耕地面積の中で米の生産を中心に少量多品目の生産という特色があります。このような中、特産の「温海かぶ」や山菜などの「特用林産物」等の生産・販売と特色を活かした取組みを展開していますが、農業所得は年々減少傾向で、農業だけでは生計を立てることは難しい環境にあります。これに伴い耕作放棄地が増えている状況にあり、この耕作放棄地を利用した特産品の開発が求められるとともに、農林産物の生産・集荷・販売だけでなく、所得拡大のため加工品の開発などが課題となっています。

水産業においては底引き網漁については青年層の就業が見られ、新鮮な魚介類をテーマにしたイベントも多く開催されるようになっていきます。一方沿岸漁業については高齢化が目立ち、後継者育成が急務となっている他、燃料費の高騰や魚価の低迷、異常気象による漁獲量の減少など厳しい状況にあり、新鮮な魚介類の提供体制の構築や水産加工品の開発が課題となっています。

観光商工業については、観光の中核となる「あつみ温泉」の観光客が、旅行形態の変化などもありピーク時の約半分まで減少、これに伴い旅館や商店なども減少傾向にあり、その再生が課題となっております。また、あつみ温泉のシンボルである「朝市」の店舗の減少や「しな織」、「温海こけし」など伝統工芸の後継者不足が問題となっており、観光の目玉としてその活性化が求められています。

一方で温泉街の環境整備が進んだことや日本海東北自動車道の鶴岡～温海間の開通の効果により観光客は増加傾向にありますが、日本海沿岸東北自動車道の全線開通によるストロー現象を防ぐためには、温泉街のさらなる魅力づくりと、その知名度を上げるための観光PRの強化が課題となっています。

温海地域は各集落単位で企業誘致を行うことで就労の場を確保してきましたが、経

济情勢の変化に伴う企業の撤退、特に男子型企業の撤退が地域外への就労者を増やすこととなり、人口流出の一因となっていることから、企業誘致による就労の場の確保が課題となっています。

【課題解決に向けた提言】

●地場産品を売り出すための商業施設の整備と企業誘致

平成24年3月の日本海東北自動車道鶴岡～温海間の開通は、人、物の流れに変化をもたらし、日本海東北自動車道と国道7号を合わせた温海地域内の交通量は大幅に増加しており、全線開通に伴い高速交通網が首都圏と直結することで交流圏が拡大し、温海地域の交通量、交流人口はさらに増加するものと思われます。また、現在日本海東北自動車道新潟～青森間には飲食物を提供するサービスエリア、パーキングエリアなどの休憩施設がなく、温海地域はドライバー等が休憩するために適した位置にあると考えられます。

温海地域としてはこの機会を逃すことなく、地域の持てる力を最大限に発揮し産業振興につなげることが重要であると考えます。

日本海沿岸東北自動車道全線開通に向け、鶴岡市の南の玄関口として、温海地域をはじめとする鶴岡市の地場産品の販売促進、観光情報の発信基地を目的とした施設整備と、高速交通網の整備に伴い交通事情の改善が見込まれることから、地域住民の就労の場の確保を目的とした企業誘致を提言します。

<具体的方策>

- ・高速道利用者と国道7号利用者、さらに地元住民も利用できるような産直施設、飲食店、情報提供施設、休憩施設を併せた商業施設を整備する。
- ・交通事情の改善を機に就労の場を確保するため、地域内への企業誘致を図る。

2. あつみ温泉の振興

【現状と課題】

あつみ温泉は旅行形態やニーズの多様化などにより、平成2年をピークに観光客が減少を続けていますが、温海川沿いの市道を人中心のみちづくり・まちづくりをテーマとした「かじか通り」の整備が行われ、併せておもてなしの装置の整備による賑わ

いづくりの取組みが行われており、おもてなしの装置は地元住民の意識向上もあり一定の整備がなされ、温泉街の賑わいづくりに大きな効果をもたらし、高速効果も相まって観光客は増加傾向にあります。

しかし、一方では温泉街に空き店舗や空き旅館が増えており、その整備と再生、活用が温泉街の景観づくりの観点から大きな課題となっています。また、観光の目玉となってきた朝市の店舗数の減少や「温海こけし」などの伝統工芸品の後継者不足が大きな問題となっており、その再生が課題となっています。

温泉街の賑わいを創出するためには、地域全体がおもてなしの心を共有することが不可欠であり、旅館や商店、観光協会、商工会、行政など関係団体がそれぞれの役割を認識し、魅力ある商店づくりや温泉街の景観づくりに取り組み、賑わいのある温泉街づくりを進め、ストロー現象の発生を防ぐことが大きな課題となっております。

【課題解決に向けた提言】

● 「そぞろ歩きが楽しいあつみ温泉」づくり

ストロー現象の発生を防ぐため、あつみ温泉のさらなる魅力づくりと知名度を上げることが求められています。

あつみ温泉は、行政主体による市道や河川の整備、住民主体によるおもてなしの装置の整備に取り組んできており、観光客が増加するなど効果が表れていることから、継続的に景観づくりに取り組むことが必要です。

日本海沿岸東北自動車道の全線開通後も観光の目的地となるよう、魅力ある温泉街づくりと周辺環境の整備、観光PRの強化を図り、「そぞろ歩きが楽しいあつみ温泉」の実現に向け、地域が一体となって取り組むことを提言します。

<具体的方策>

- ・ 空き店舗を活用した新規出店の支援やあいさつの装置（鉢植えなど）、迎客の装置（ベンチ・テーブルなど）、集客の装置（看板、イーゼルなど）の整備を進め、温泉街の賑わいを創出する。
- ・ 交流圏の拡大による新たな市場開拓に向け、温海地域をはじめとする鶴岡市全体の観光PRを強化する。
- ・ あつみ温泉のシンボルである朝市の再生や「温海こけし」などの伝統工芸の伝承、

周辺観光スポットの整備などに力を入れ、行政と関係団体が連携して観光の目玉づくりに取り組む。

- ・温泉街の中心部に駐車場を整備し、日帰り客の利便性を確保する。

3. 鼠ヶ関地区の振興

【現状と課題】

鼠ヶ関は山形県、また鶴岡市の南の玄関口に位置しており、県内最大の底引き網漁業の基地である鼠ヶ関港、海水浴やヨットなどの海洋レジャーの拠点としてマリンパークねずがせき、鼠ヶ関マリーナなどの施設を有しています。さらに、奥羽三大関所のひとつでもある「念珠関」や「念珠の松庭園」、「弁天島」といった史跡・名勝もあり、観光資源が豊富な地区となっています。また、4月の例大祭における「神輿流し」や「大漁旗フェスティバル」、「トライアスロン大会」、「お魚夕市」など、伝統芸能やイベントも盛んに行われています。

しかしながら、鼠ヶ関を訪れる観光客は年々減少傾向にあり、鼠ヶ関港では新鮮な魚介類が多く水揚げされているものの、それを地元で提供、消費できる体制が確立されていないなど、これらの豊かな観光資源を有効に活かされていないのが現状です。

また国道7号から海岸部に通じるアクセスが悪く、イベント開催時などには交通渋滞を引き起こす結果となっており、インターチェンジが設置されることによりこれまで以上に交通事情が悪化することが予想されます。さらに沿岸部と山間部を結ぶ道路は冬期間通行止めになるなどアクセスが悪いことから地域内交流の妨げとなっており、その解消が求められています。

豊かな観光資源を有効に活用し、地域の主要な産業である漁業とリンクさせることにより、交流人口を拡大し地区の活性化を図る必要があります、そのために鼠ヶ関周辺の環境整備と地域内の連携強化が課題となっています。

【課題解決に向けた提言】

●周辺環境の整備と地域資源の有効活用

鼠ヶ関地区は、日本海沿岸東北自動車道の全線開通に伴い鼠ヶ関インターチェンジ（仮称）の設置が見込まれており、これを機に地域が有する豊富な資源を有効活用し、交流人口の増加を図ることが求められています。

そのためには鼠ヶ関インターチェンジ（仮称）周辺の環境整備が必要であり、併せて「念珠関」や「弁天島」といった史跡・名勝を有効活用するための環境整備やマリパークねずがせきを中心とした海洋レジャーの拠点として整備することを提言します。

<具体的方策>

- ・日本海沿岸東北自動車道の鼠ヶ関インターチェンジ（仮称）周辺の環境を整備し、鼠ヶ関集落内へのスムーズなアクセスを確保するとともに、沿岸地域と山間地域とのアクセスを通年で確保し、伝統文化、食文化など地域内の交流を促進する。
- ・「念珠関」や「弁天島」などの史跡、名勝の観光資源の環境整備やマリパークねずがせき周辺を海洋レジャーの拠点として整備し、年間を通じた観光資源として活用する。
- ・地域で水揚げされる新鮮な魚介類をPRするため、海鮮レストランや直売施設を整備する。

Ⅱ 温海地域審議会の開催状況

平成24年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月24日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度予算及び主な事業の概要について 提言書について 平成24年度地域審議会の内容について
第2回	8月9日	<ul style="list-style-type: none"> 学校適正配置について 地域審議会協議テーマについて
第3回	10月5日	<ul style="list-style-type: none"> 地域審議会協議テーマについて (協議テーマに基づき分散会による協議)
第4回	11月20日	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡市総合計画実施計画の策定について 鶴岡市コミュニティ基本方針の策定について (協議テーマに基づき分散会による協議)
第5回	2月15日	<ul style="list-style-type: none"> 日沿道全線開通に向けた地域振興策について

平成25年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月29日	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度予算及び主な事業の概要について 新地域振興計画の策定について 日沿道全線開通に向けた地域振興策について
第2回	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> 日沿道全線開通に向けた地域振興策について 高速道におけるパーキングエリアの現状 (山形道櫛引パーキングエリアの視察)
研修会	8月26日	<p>【報告】「これまでの取り組みの検証」</p> <p>【講演】「あつみ温泉のまちづくりの方向性」 (講師：まちづくりアドバイザー 東大 堀教授)</p> <p>【懇談会】「これからの温泉街のまちづくり」</p>
第3回	10月31日	<ul style="list-style-type: none"> 住民懇談会の結果について 地域振興プロジェクトの進捗状況について 日沿道全線開通に向けた地域振興策について
第4回	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡市総合計画後期計画の策定について 協議テーマ「日沿道全線開通に向けた地域振興策について」に係る提言書(案)について

Ⅲ 温海地域審議会委員名簿

役職	所属団体・役職名等	氏名	備考
会長	温海地域自治会長会会長	奥井 厚	
副会長	温海町森林組合代表理事組合長	佐藤 重夫	
委員	庄内たがわ農業協同組合理事	本間 澄男	
委員	山形県漁業協同組合理事	本間 満	
委員	出羽商工会理事	馬場 充	
委員	あつみ観光協会会長	柴田 実	
委員	あつみ福社会理事	本間 英機	
委員	温海地区民生児童委員協議会会長	五十嵐 孝昭	
委員	温海地区小中学校PTA会長連絡会 幹事校PTA会長	加藤 和民	
委員	温海体育協会会長	佐々木 真人	
委員	温海芸術文化協会事務局長	榎本 五郎治	
委員	鶴岡市老人クラブ連合会温海支部長	五十嵐 幸男	
委員	温海地域婦人会副会長	本間 百子	
委員	温海地域青年団体連絡協議会代表	伊藤 貢	
委員	鶴岡市消防団温海方面隊隊長	佐藤 眞	
委員	公募	佐藤 眞紀子	
委員	公募	斎藤 徹	
委員	公募	佐藤 容介	
委員	公募	本間 加知子	

前委員

所属団体・役職名等	氏名	備考
公募委員	五十嵐 淳子	平成24年12月12日退任
あつみ福社会理事	橋本 忠志	平成25年3月31日退任
温海地区小中学校PTA会長連絡会 幹事校PTA会長	渡辺 和一	平成25年5月10日退任